

## 平成28年度地域連携研修

- 期 日 平成28年11月14日(月)
- 会 場 名寄市立名寄小学校
- 講 師 学校力向上に関する総合実践事業アドバイザー  
上越教育大学教職大学院教授 赤坂真二氏

学校力向上に関する総合実践事業指定校として、管理職のリーダーシップの下、全校が一つのチームとなった包括的な学校改善を推進し、「学び続ける学校」としてのモデルを提示する場や機会として、地域連携研修を行いました。

今年度は、上越教育大学の赤坂教授から指導助言を受け取り組んでいる学級づくりと学習指導の充実の両方を同時に行う「チーム学習」を取り入れた授業を公開しました。その後、公開した授業の成果と課題を明らかにするとともに疑問点を出し合う研究協議を行いました。最後に、赤坂教授から出された疑問点に答えていただくとともに、『協同力を高めるチーム学習の在り方』と題して講演をいただきました。

### ●学校力向上の取組についての説明

授業公開の前に、本校の学校力向上の取組について、知、徳、体の3つの視点及び学びを支える支持的風土のある学級づくり、人材育成の取組の視点から説明しました。

#### ◆知の側面からの取組

- ・基礎学力保障

基礎学力保障テスト

漢字早期学習

めいしょう宿題

- ・個に応じた指導の充実

少人数・習熟度別指導

放課後ぐんぐんタイム

ヒル☆スタ

#### ◆徳の側面からの取組

- ・ひびきあう活

詩の語り

あいさつ運動

朝の歌



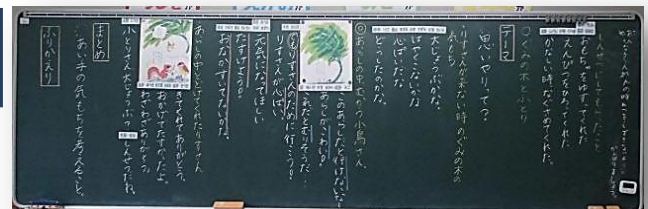
- ・道徳教育の推進

道徳ノートの使用

道徳コーナーの掲示

道徳アンケートの実施

道徳の時間の板書の保存と蓄積



#### ◆体の側面からの取組

- ・年間を通じた食育

本校教諭・栄養教諭による定期的な食育指導

早寝・早起き・朝ご飯の推進

- ・持久力を育むマラソン

名小っ子マラソン(夏季)

- ・3分間短縄チャレンジ

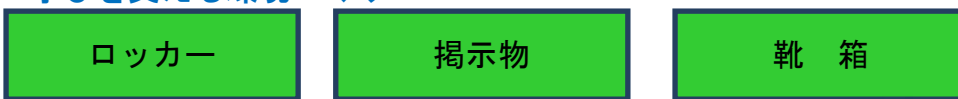
どさん子元気アップチャレンジへの参加(冬期)

◆『学びを支える支持的風土のある学級づくり』からの取組

・学びを支える学習規律



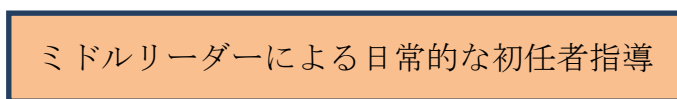
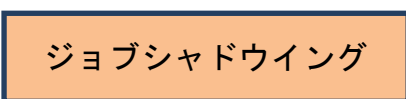
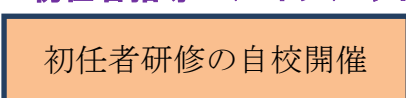
・学びを支える環境づくり



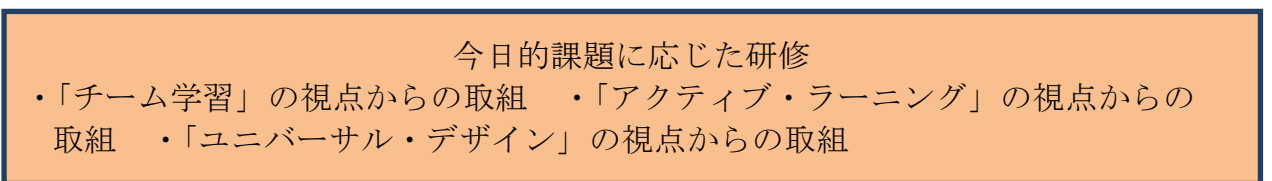
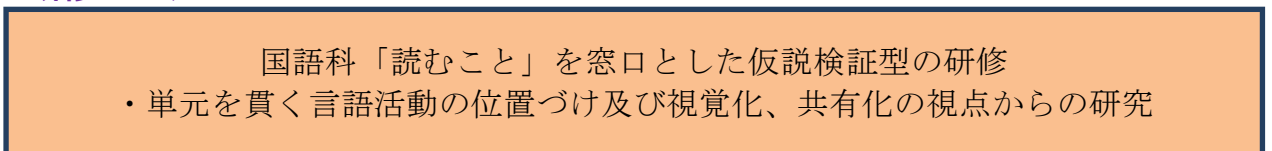
・学級目標を大切にした取組 ・ふわふわのつながり

◆人材育成の取組

・初任者指導・ジョブシャドウイング



・研修システム



●指導方法改善の視点

学校力向上の取組についての説明の後、かかわりあって学ぶ「チーム学習」を行う上での指導方法改善の視点について説明しました。本校では、以下に示す、赤坂教授が提唱する「チーム学習チェックリスト10」を指導方法改善の視点として用いています。

チーム学習チェックリスト10		
	チェック項目	留意事項
1	子どもたちが、かかわり合う必要性を理解しているか	日常的に、つながり助け合う必要性を理解しているか。
2	子どもたちが、良好にかかわり合うためのルールを理解しているか。	かかわり合う学習が、機能するためのツール(特に言語に関すること)を「あたたかく徹底」する。
3	アウトプット(行動表記)型の学習課題を設定し、その達成を評価しているか。	1単位時間のねらいを言語化し、可視化し、全員にわかる表現にして、全員に「学習課題」を理解させ、学習の中でそれができたかどうかを確認し、子どもたちに「できたこと」を自覚させる。 学力低位の子が理解できる課題設定をする。
4	個人学習(個人思考・個人作業)の時間を確保しているか。	かかわり合う前に、個人で取り組む時間を設定する。

5	子どもたち同士で、自分の意見を伝える場を設定しているか。(再生過程の共有)	他者に自分の考えを伝える場を設定する。
6	子どもたち同士で課題を解決する場面を設定しているか。(創造過程の共有)	他者との話合いや相談、作業を通して、答えや新たな考え、課題を見つけ出す場を設定する。
7	かかわり合う前に目標を提示し、かかわった後にその目標を評価しているか	活動の前に「何をするか」などの目標を明確に示し、活動の後にそれが「できたか」を確認する。
8	かかわり合っている時に、適切な姿をフィードバックしているか	活動中に、望ましい姿を指摘したり、認めるような声かけをしたりしている。
9	個人学習で学習課題を達成する場面を設定しているか。	かかわり合ってできたことが個人でできるかを確かめる場を設定する。
10	時間内に課題達成ができなかった子のフォローをしているか。	できなかった子がいた場合のフォローアップの手立てが用意しており、また、時間内に出来なかった子がいた場合のフォローアップの体制をつくる。

## ●公開授業

### ◆2年生 4校時 音楽「みんなの音楽時計を作ろう」(T1: 金澤かおり T2: 福川洋枝、角谷淳樹)

・本時の目標 速さやフレーズに気をつけながら、自分の考えや願いをもって音楽時計をつくる工夫をすることができる。


・本時の授業改善の視点

チーム学習チェックリストのチェック項目	チェック項目を実現するための手立て
子どもたち同士で課題を解決する場面を設定しているか。(創造過程の共有)	・音楽時計作りへの課題意識を基にしたグループ編成とする。 ・話合いのルールや進め方を伝える。
かかわり合う前に目標を提示し、かかわった後にその目標を評価しているか。	自分たちの時計に合う「重ね方」「始め方」「終わり方」「速さ」を話し合っ決めてさせ、考えを説明できるようにさせる。
かかわり合っている時に、適切な姿をフィードバックしているか。	望ましい姿を指摘したり、認めるような声かけをしたりする。

・本時の展開

	学習活動
導入 (5分)	①『おしゃべり音楽時計』を歌う。(1分) ②4つの音型の確認をする。(3分) ③課題をつかむ(1分) <div style="background-color: #c8e6c9; padding: 5px; text-align: center;"> <b>かだい 自分たちの音楽時計を作って、ほかのグループにはっぴょうしよう。</b> </div>
	④学習の見通しをもつ。(2分) 1. よいグループのはっぴょう。 → 2. グループでかんがえる。 → 3. グループどうして交りゅう。 → 4. まとめる。 → 5. ふりかえり。 ⑤良いグループを取り上げて発表する。(3分) ・気付いたことを聴き手の児童が発表する。




展開 (30分)	<p>⑥グループで考える。(25分) *本時の授業改善の視点の主な場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良いグループの発表を聴いて、めあてを決める。</li> <li>・入る順番や始め方、終わり方、速さなどを決めるときは、全員で確認してワークシートに記入する。</li> <li>・どんな作り方をしたのか全員が説明できるようにする。</li> </ul> <p>⑦グループ同士で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな作り方をしたのか説明する。</li> <li>・演奏する。</li> </ul>	
まとめ (10分)	<p>⑧まとめる。</p> <p style="background-color: yellow;"><b>まとめ はやさや音のかさね方に気をつけると、自分たちの音楽時計を作ることができる。</b></p> <p>⑨学習の振り返りをする。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わかったこと、できるようになったこと、発表でがんばりたいこと等を書く。</li> </ul>	

◆3年生 4校時 算数「分数」(T1 森江裕紀 中村文玲 T2 久保成美)

- ・本時の目標 同分母の真分数どうしの加法計算の仕方を理解することができる。
- ・本時の授業改善の視点

チーム学習チェックリストのチェック項目	チェック項目を実現するための手立て
アウトプット(行動表記型)の学習課題を設定し、その達成を評価しているか。	問題となる場面を十分に想起させることで、課題に対し意欲をもてるようにする。
かかわり合う前に目標を提示し、かかわった後にその目標を評価しているか。	交流の目標を明示して話し合わせることで、課題解決に向け、目的意識をもつ。
かかわり合っている時に、適切な姿をフィードバックしているか。	友達の説明の大切な部分を聴き合うよう指示することで、子どもたちの発言から望ましい姿をフィードバックする。

- ・本時の展開

	学習活動	
導入 (15分)	<p>①本単元の既習事項と前時を振り返る。(2分)</p> <p>②問題の場面を知る。(3分)</p> <p>③本時の問題を知る。(3分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>2/5Lのジュースに1/5Lのジュースを合わせます。どちらの考えがよいでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題文をノートに書く。/・問題文を全員で読む。</li> </ul> <p>④2つの考え方を提示し、答えを予想させる。(2分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>A 2/5Lに1/5Lのジュースを合わせるから、2/5 + 1/5 = 3/5Lを持って行こう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; margin: 5px 0;"></div> <p>⑤課題を提示する。(2分)</p> <div style="background-color: #c8e6c9; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>2/5L + 1/5L を全員で解決し、分数のたし算を一人で解けるようになる。</b></p> </div> <p>⑥見通しをもつ。(3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を想起させ、考えを表現する方法を決める。</li> </ul>	



展開 (23分)	<p>⑦個人思考を行う。(5分) ・ノートやワークシートに言葉や図を用いて、どちらがよいかを考える。</p> <p>⑧ペア交流を行う(3分) ・自分の考えを友達と説明し合う。友達の考えを取り入れたり、不足している部分を教え合ったりする。</p> <p>⑨全体で交流する。(12分) *本時の授業改善の視点の主な場面 ・友達の考えを聞き、分数のたし算ポイントシートに大切だと思う言葉をまとめていく。</p> <p>⑩学習のまとめを行う。(3分)</p> <p style="background-color: yellow; text-align: center;"><b>1/5がいくつあるかで考える。分母はたさずに分子をたす。</b></p>
まとめ (7分)	<p>⑪個人で習熟問題に取り組む。(5分) ・問題を解いた後に、ノートに考え方を書く。考えがうまく表現できない児童は支援し、口頭で説明させる。</p>




### ◆6年生 4校時 理科「水溶液」(T1 林 琢磨 T2 小笠原 菜水)

- ・本時の目標 名前を伏せた6種類の水溶液(炭酸水、塩酸、水、食塩水、石灰水、アンモニア水)を特定する方法を考え、説明することができる。
- ・本時の授業改善の視点

チーム学習チェックリストのチェック項目	チェック項目を実現するための手立て
子どもたち同士で、自分の意見を伝える場を設定しているか。(再生過程の共有)	4人班での話し合いのルールと手順を電子黒板に示して説明する。
子どもたち同士で課題を解決する場面を設定しているか。(創造過程の共有)	4人班で話し合い、「速い」「簡単」「正確」な実験方法を1つ決定させる。
かかわり合っている時に、適切な姿をフィードバックしているか。	望ましい姿を指摘したり、認める声かけをしたる。

- ・本時の展開

	学習活動
導入 (3分)	<p>①既習の水溶液の性質を振り返る。(2分)</p> <p>②課題をつかむ(1分)</p> <p style="background-color: #90EE90; text-align: center;"><b>課題 6種類の水溶液を特定するよりよい方法を考え、チャート図で説明しよう。</b></p>
	<p>③学習の見通しをもつ。(2分)</p> <p>④個人思考する。(10分) ・実験方法をチャート図にかく。 ・できるだけたくさんの実験方法を考える。</p> <div style="text-align: center;"> <p>A B C D E F</p> <p>↓</p> <p>蒸発させる</p> <p>何も残らない      白い粉</p> <p>○○○○      ○○</p> <p>↓      ↓</p> <p>リトマス紙</p> <p>酸性   中性   アルカリ性</p> <p>○○   ○   ○</p> </div>

展開 (39分)	<p>⑤ 4人班で話し合う。(15分) * 本時の授業改善の視点の主な場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えた実験方法を班員に説明する。</li> <li>・4人班で話し合い、「速い」「簡単」「正確」な実験方法を選択したり、創造したりする。</li> <li>・実験方法を決定した班は、全員が説明できるように、チャート図をノートに書いたり、説明する練習をしたりする。</li> </ul> <p>⑥ 全体で交流する。(12分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数人が実験方法を全体に説明し、説明の仕方を全体で確認する。</li> <li>・自分の実験方法を他の班のメンバー2名に説明する。</li> </ul>	
まとめ	<p>⑦ 学習の振り返りをする。(3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わかったこと、できるようになったこと、学び方のよさを書く。</li> </ul>	

## ●ワークショップ型研究協議

研究協議は、低学年3グループ、中学年4グループ、高学年8グループに分かれ、付箋に書いた成果と課題を模造紙に貼り付け、それを基に交流・協議しました。その後、グループ間でも交流を行い、参加者間で授業において行うべき大切なことや学級づくりを進める上で大切なことなどについて共有化を図ることができました。

\*以下、研究協議の中で参加者の方々から出された授業にかかわっての意見や感想等の一部を紹介いたします。

### 2年生音楽「みんなの音楽時計を作ろう」について

#### 成果

- ・音楽が苦手な子どもも周囲の協力で進められた。
- ・全員参加が保障される授業であった。
- ・使用するリズムを4つに限定することで、どの子どもも話し合いに参加でき、楽器に親しみながら、グループで音楽づくりができた。
- ・グルーピングがよく、グループ内での役割分担も明確に示されていたので、スムーズに発表ができていた。
- ・はったり、はがせたりできるシールを使うことで子どもたちは、自分達の考えをすぐに訂正できていた。
- ・「よいと思います」など、相手の話に対してしっかりと反応を返してあげる様子が見られました。
- ・「なぜそうしようと思ったの?」「〇〇くんは?」など、グループ全体が話し合いに参加できるような雰囲気を子どもたち自身が作り上げている様子が見られた。
- ・互いに認め合う環境づくりができていた。グループ交流で、具体的な感想とアドバイスを言い合い、よりよくしようと工夫していた。
- ・話し合いのルールを念入りに伝えたことにより、子どもたちがきちんと意識できていた。
- ・子どもたち同士で課題を解決するためのグループ解決の場を設定することで、自分ごととして、他とかかわり合いながら活動していた。



- ・話し合いの中で、自分の考えを伝え合い、その中で、課題を見つけるなどして自分たちで練習を進めることができていた。
- ・楽器の選択肢が多く、思いや意図をもっている子どもは、自分にあった音を追求しやすい。
- ・アドバイスをもらったからまたやりたい!と言っている子どもがいた。話し合う活動を楽しむことができたからこそだと思う。
- ・先生方が一つ一つのテーブルをまわって、子どもたちの頑張りをほめていた。自分の努力が認められ、やる気が増していた。

## 課題

- ・すべての時間が子どもたちにとって練習時間となってしまった。理由としては①先生の説明よりも楽器に夢中 ②楽器が足りておらず、話し合いの時にやっと練習した子が多い③重ね方、始め方、終わり方、速さについて話し合うという視点が子どもに伝わっていなかった。
- ・自分達の時計を意識できず、遊びになってしまった。何の活動なのかを明確にすべきであった。
- ・グループで話し合いに入るまでの先生が話す時間が長い。また、指示を小出しにするのではなく、導入で簡潔に言う方法もあったと思う。子どもがやる気になっているときに、先生が話し始める場面があった。
- ・核となる子どもがいるグループとそうでないグループがあったので、グループの作り方の工夫が必要であった。
- ・もう少し、課題の見通しをもたせた方がよいと思いました。「速さ」とか「フレーズ」とかどちらかという、合わせることに意識が集中してしまっているような気がしました。
- ・話し合いのルールが機能している様子があまり見られなかった。
- ・先生の活動の際の意図・指示が伝わっていない。
- ・「重ねかた」「始め方」など、よりよいものを考えるための視点をもたせた方が、話し合いが進んだのではないか。
- ・小節を減らしたら、もっとスムーズに製作・交流ができると思います。
- ・話し合いの環境—音楽が鳴っている中、楽器を演奏しながら、話し合うのは難しい。
- ・子どもは早く楽器を鳴らしたいと思っているので、考え・伝え合う時間と練習時間を分ける。
- ・個人学習にとどまらないように、グループで音の作り方を書けるワークシートを用意する必要があった。

## 3年生算数「分数」について

### 成果

- ・個人思考が早くすんだ子どもからどんどん交流するので時間に無駄がなかった。
- ・相手を意識して話す姿勢がよかった。聞き合う雰囲気ができており、学習規律が徹底されていた。
- ・考え方などのノートの指導がしっかりしている。
- ・答えの理由を説明させているので、課題が達成できたかをみとる工夫ができていた。
- ・ $1/5L$ と $2/5L$ を実際に用意することで、子どもたちが興味をもって、取り組む事ができていた。
- ・課題把握の場面で、「え？まじで？」という声。児童が自分がどこまで達成すればよいか伝わる課題になっていた。
- ・話し合いで達成することが明確で意識して取り組んでいた。みんなが自信をもってたくさん説明ができていた。
- ・交流することで、全体の場で発言できなくても、自分の考えを伝えることができる
- ・一人一人が自分の考えを発表しようとする姿勢がよく見えた。普段からの積み重ね。
- ・話し合いの目標のゴールが明確に示されたので、しっかりと意識して進められていた。
- ・行動表記「一人で解けるように」という自分ができるようになることへの意欲だけでなく、友達もできるようにしたいという意欲につながっていた。
- ・目標と手立てがはっきりしていたので、子どもたちが活動しやすかった。
- ・課題を選択制にして幅をもたせたのがよい。
- ・具体物を使って、問題・課題をよりわかりやすくしていた。
- ・課題 この1時間で自分が何をやるのかよくわかる。
- ・子どもたちは積極的に発表していて、ねらいは十分に達成されていた。
- ・Bとノートに書いていた子どもも友だちの発表を聞いて、修正していた。
- ・一人一人が考え方を説明することにチャレンジしようとする主体的な姿が見られた。
- ・コーヒート牛乳＝コーヒート牛乳という実物の提示は、子どもの興味・関心を高め、意欲的に課題の解決を図ろうとする取組につなげることができた。
- ・ペア交流があったおかげで自分の考えをはっきりさせて、自信をもって発表できる子どもが増えたと思う。
- ・自分の言葉で伝えようとしていた。聞く子どもたちはそれを自分のものにしようとしている姿が見られた。
- ・グループ交流で自分の考えを言うことができ自信がもてよかった。
- ・うまく実物の答えを隠して、「気になる」気持ちを高められていた。
- ・自分の考えがまとまった子どもが、まだ、まとまっていない子どもに教え、交流することで互いの理解の深まりにつながっていた。
- ・説明のポイントを友達の発表からさがすという視点は適切であった。
- ・行動表記型の学習課題設定により、子どもが本気で学習する内容を明確に捉えることができていた。





## 課題

- ・説明の仕方の指導をしておくよかった。
- ・ペア交流時、ひとりぼっちの子どもが2人いた。となり同士で行うことにするなど、決めておく必要があった。
- ・話し合い-Bを取り上げる必要があったのでは？なぜだめなのかを話し合いで知らせてなるほどと思ってこそ、Bの子どもも切り替えられたのではないと思う。
- ・Bの考えを述べる時間、機会がなかったので、なぜ分母をたさないのかが深まらなかったように思う。
- ・ペア交流の内容のチェックの仕方を考え、きちんと行うべきだった。
- ・Bが正しいと思う理由を発表する場面があればよかった。
- ・考えの交流のときに根拠を掲示物から見付けられるようにそれとなく示しておくよかったのではないか。
- ・算数として、まとめ、 $1/5$ を単位分数とした、たしざんの考え方にしなくてもよかったのか？
- ・Aが正しい理由だけでなく、Bが違う理由も言えるようになる一人一人の考えが深まったように思う。
- ・リットルマスの図は3つあっても良かった？低位の子がツールとして使えていなかった。ペアでの交流で、二人とも、ノートにもプリントにも書いていなかったところがあった
- ・話し合っておらず説明しただけだと思う。間違えた子も「なるほど」を納得できる話し合いが必要だと思う。
- ・できていない子が、どこまでできているかを見取る部分があるとよいと感じた。
- ・全体交流の中でBの子どもが納得できた姿が見えなかった。
- ・「個人思考」と「交流」の時間の明確な線引きがなかったため、交流の度合いに大きな差が出ていた。
- ・お互いの立場を知る時間が交流する前にあった方がよいと思う。話し合いに目的意識が生まれる。

## 6年生理科「水溶液」について

### 成果

- ・ほめる言葉かけやこまかい指示が多く見られてよかった。
- ・全員が主体的に課題に取り組むことができた。
- ・なぜ班活動をするのかという見通しを子どもたちに示していたのがよかった。
- ・グループ交流により、共に考え合い、深め合う姿勢が見られた。
- ・理科が苦手な子どもへのフォローを自然体で行っていた。また、周囲の協力で活動を進めることができた。
- ・話し合いが苦手な子どもや自分の考えがまとまっていない子どもが、順番に友達の説明を聞きながら、自分のチャート図を作ることができた。
- ・4人班で話し合う前にゴールが明確に示されていたので、全員が意識して発表し合うことができていた。
- ・話し合いにより、各自の手順の特徴をとらえ、考えを深めていた(8班)
- ・話し終わったグループに別のアプローチを考えさせていた。
- ・全体交流の方法がとてもよかった。一人の考えを交流することでみんなの考えを交流できていた。
- ・ワークシートに書かれた続きを考えさせる学習が、子どもたちの興味をひく、よい刺激になっていたと思う。
- ・児童の考え⇒全体で考えることで思考の深まりを感じた。
- ・活動、ペア、グループ、発表などの学習活動により、子どもたちの思考の流れが止まることがなかった。
- ・ペア・4人班・全体 様々な集団学習が授業に取り入れられ、見応えのある公開授業だった。
- ・課題の説明ができるようになるを全員がとらえ、班で交流できていた。
- ・前時までのワークシートのまとめや見通しをもたせるための工夫、チャートでの確認(全体)がきちんとあったので、子どもたちは個人思考や集団思考をしっかりと行うことができていた。
- ・チーム学習を行う上で、みんなで目指している姿を話し合い・発表の中で常に声をかけ意識させることを毎日続けると、とても効果的だと思う。
- ・授業において、自分の意見を伝える場が意図的に設定され、自分の意見を言い合える雰囲気(風土)ができていた。
- ・アウトプット型で目標をたてることで、こどもは見通しをもてると思った。
- ・グループ交流の手順とルール、ゴールを事前に明確にすることで、グループの交流が順調に進んでいた。交流を通して、多様な方法に気付いていた。





- ・全体での交流をする際、板書を使つての説明→話し合いの過程があつたので、自分のもの、こととして集中して聞くことができていた。
- ・子どもに望ましいかわりについての声かけをすることで、先生自身のかかわり方がとてもすてきだと感じた。
- ・グループペアなど、子ども同士で話し合う時間が確保されていて、一人一人が自分の意見をもてていた。全体交流でも一人一人に考えさせることができていた。
- ・チャート図の説明は大変良かった。実物投影のモニターの活用も有効だった。
- ・互いの考え方の違いを認め合つて、解決策を整理しようとする姿が見られた。
- ・モデルで示されていない方法で特定することができていた。
- ・みんなで考えたから、この方法以外にもできる！になった
- ・班員一人一人が正しい方法を考え、発表することはできていた。
- ・全員が発表できていた。4人グループの利点。
- ・話し合いの目的を明確にしたことで、自己評価の観点がはっきりしていた。
- ・先生の個人思考の前の説明（例えば～）が具体的でわかりやすく、一人一人がしっかり考えられていたため、班での話し合いでも正しい方法を発表できていた。
- ・話し合いのルール、やり方が子どもたちに浸透していた。
- ・指示されて、すぐ集中できるのがすばらしい。
- ・グループの中で誰かが発表した後、拍手をしていた。関心をもって聞くことができ学級経営のよさ、雰囲気のよさが伝わってきた。
- ・答え方の例を示していて、自信をもって自分の意見をグループのメンバーに説明ができていた。
- ・すべての子どもたちが、授業に参加している姿が見られ、日常の学級経営が垣間見られた。学習のルールが定着している成果だと感じた。



## 課題

- ・チームの目標はもっと高くてもよかったのではないか。
- ・ペアでの確認を数回行ったが、話していない子どもやペアがいない子どもがいた。
- ・目標は達成されていたと思うが、チームで話し合つて一つの方法を深めようなど、子どものかわりによって新しいものが生まれる学習課題を設定するなどの工夫があつてもよかった。
- ・子どもたちが話し合うねらいは理解しているし、教師のはたらきかけもあつたが、活動の必要性を感じていたか？
- ・グループの話し合いの途中で、自分の意見をまとめ終わっていない子どもが、書くことの続きをしてしまっていた。発表するときは、自分の作業をしないような声かけがあつてもよかったかもしれません。
- ・グループによっては、話し合いをうまくリードできていないところがあつた。
- ・チャート図を書くことに時間がかかった。グループ活動が始まっても自分のチャート図を完成させることを優先させる子どもが数人いた。書くことに課題のある児童には操作活動ができるように教材準備をしてもよかった。
- ・同じ子どもと同じ説明をするよりも班全員が違う手順の説明をできるようにする必要がある。
- ・6種類の特定のため実験の種類をワークシート上に記入していたが、子どもによって同じ実験でも順番が違ったので、何が特定に効率がよいか、どちらがよいのだろうと比較し、ゆさぶつたらもっとよかったと思う。
- ・自分の方法を説明できていたが、正しい方法の「たしかめ」という視点でいうと、何をもとにどのように確かめればよいのか、明確なおさえがなかったが、子どもたちは真剣に話し合い、高め合っていました。
- ・考えをもてない子どもの中には、話し合いがはじまってもずっと書いている子どもがいたので、チームでやるよさにはつながらなかった。
- ・チーム全員がほぼ同じ解決策であつた場合、新たな解決策を見出す際の教師の支援（フォローアップ）が見られなかった。
- ・話し合いの目的が理解できていないグループ（子どもがいた）があつたので、指示は一つに絞るとよかった。
- ・チャート図の分け方はできていたが、どちらでどのような反応が起こるかという説明が抜けている子どもが何名かいた。
- ・アウトプット型の課題はよいが、まとめと合わないように感じた。



## ● 講演会

講演題 「協同力を高めるチーム学習の在り方」

講師 上越教育大学教職大学院教授 赤坂 真二 氏

### 講演の概要

- これからの子どもたちは、人口減少などこれまで誰も経験したことがないような課題、つまり、これまでの経験から答えを見出すのが難しい課題に対して、最適な答えを見つけ出す力を身に付ける必要があります。
- このような中、学校ですべて教師の話聞いて、仲間話にただうなずくだけで、何一つ新しいことを生み出すこともなく、ひたすらメモをとり続けるような授業を行うというのではだめです。やる気や生き方につながるような教育活動を行っていかなければならないと思います。
- そこで、重要になるのが学級経営の充実です。学級の中でお互いに信頼関係があって、はじめて、やる気になり深い学びができるようになります。
- アクティブ・ラーニングは、教員による一方的な講義形式とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称だと言っています。はじめは、課題解決に向けた「主体的・協働的な学び」でしたが、これが、「主体的・対話的で深い学び」になりました。主体性とは、思考や行動に自らの意思や判断が関与する態度のことです。無理やり行った交流はアクティブ・ラーニングではありません。子どもたちが「やりたい」と心から思ったときに、はじめてアクティブ・ラーニングになります。
- 対話的とはどのようなものでしょうか。
  - 1つ目は「情報の共有」です。交流することで、たくさん情報をもっている子どもとそうでない子どもの情報量が同じになります。情報格差をなくしていくことです。
  - 2つ目は価値の創造です。新しいものを見つけていくということです。例えばうどんしか食べられなかったうどんやの息子とカレーしか食べられなかったカレー屋の娘が付きあって、二人で食べられるものとして、カレーうどんが誕生する、新しいものを創造するということです。今の子どもたちにはそのような能力が必要です。
  - 3つ目は「良好な関係性の構築」です。これからの時代において、外国の人たちとタフな対話ができるようになるためには、良好な関係性の構築が必要です。
- 学級経営の充実とは、自治的集団づくりを追い求めることに向かいます。学級のルールが内在化され、一定の規則正しい学校生活や行動が温かな雰囲気の中で展開されること—これが自治的集団づくりの必要条件です。課題に合わせてリーダーになる子どもが選ばれ、すべての子どもがリーダーシップをとり得るようになる。学級の問題は自分たちで解決できる状態であること—これが自治的集団づくりの十分条件です。
- 教師は、親しみやすい笑顔で教室にいることが大切です。親しみやすい笑顔で教室にいることが子どもたちの生産性を上げるのです。笑顔があれば、まずはスタートできるのです。笑顔で教壇に立つことが大切です。名寄小学校でも学級がしんどくなってきているクラスがありまし



た。しかし、教師は子ども同士の関係づくりをしっかりしていたからもちこたえました。教師のリーダーシップだけでやっている学級は非常に危ういといえます。子ども同士の関係をつくるのが大切です。

- 「しつけ」はなぜするのかというと、仲間と協力できるようにするためです。名寄小学校の先生方は「返事」「あいさつ」「座り方」の3つを徹底しています。返事ができれば仲間ができてやすいです。社会的に認められる行動をとっている子どもはたくさん助けてもらえるので、学力が上がることはデータでも示されています。
- 協働というのは、能力のたし算構造です。子どもたちの能力は均等ですか？協働は理想なのですが、本当に機能するのは協同といえます。協同とは、マインドの部分をつなぐことです。何のために一緒にやるのかということ教師が語り、マインドをそろえ、力のない者の力をどのように引き出すかが大事です。こうした助け合いを行う教育は、地域作り、コミュニティーづくりにつながっていきます。



○ 「あの子をあそこまで連れて行こう」という考え方は、協同です。協同はプロセスを大切にします。仲間を大切にしようとする生き方や学び方は、今後を生きる上での財産になっていきます。協同する能力は生きる力です。そのような願いを入れた学習がチーム学習です。

○ 勉強できない子どもや困っている子どもがいるときに「ちょっと、助けてあげられる人いない？」と言って周りの子どもの力を生かしたり、自分から友だちに助けてほしいと伝えたりすることは大切なことです。自分から助けてほしいと言える人は人間関係をつくっていける人です。人は、助けてほしいと言われたら、「何とか助けてあげよう」と、あたたかい気持ちになるはずです。みんなで課題を考えられるし、仲間がつながると思います。仲間に関心をもつことになります。助けようと思ったときには、仲間に関心をもたなければなりません。

- 名寄小学校の先生方はみなさん笑顔です。笑顔で授業をしていると先生は、みんなのことが好きだということが伝わるのです。先生が自分たちのことが好きだということが伝わると、子どものパフォーマンスが上がります。仲間をつくる力は助けを求める力です。助けを求める力は生きる力です。そして、人を助ける力は社会をつくる力です。やる気と貢献する力は幸せになる力です。

\* 最後に、赤坂教授から指導助言を受けながら取り組んでいるチーム学習の指導過程のスライドを載せておきます。(講演の中で、資料のスライドの1枚として示されました。) この指導過程に沿って授業を行うことにより「みんなでできる」「一人でできる」授業の実現が可能になるということでした。さらに、学級づくりも推進されることとなりますので、各学校でも取り組んでみてはいかがでしょうか。

